

明日 への 話題

ニューノーマルな 時代における オンライン会議の 心得



アフラック生命保険
代表取締役会長

チャールズ D. レイク II

新型コロナウイルス感染症問題・パンデミックが世界的な危機をもたらすなか、私たちは今そこにある危機と向き合いながら、そして、第二波にも対応しながらステークホルダー（利害関係者）の期待に応えなければならない。今回の危機を短期的で一過性の対応事項として捉えるのではなく、社会のパラダイムシフトを前提に、事業継続と新たな価値の創造の双方を実現する機会と考えるべきである。同時にメガトレンドとしてのニューノーマルな時代では、個人としての変化力の真価も問われている。

例えば、ニューノーマルな時代ではデジタルトランスフォーメーションが進むと多くの人と考えており、すでに、人と人との接触を避けるために、組織内外でWebや電話を活用したオンライン会議の普及が一挙に進んでいる。新型コロナウイルス感染症問題の収束後も実際に人と会う必要がある会議とオンライン会議を使い分け、さらなる利活用が進むであろうことから、オンライン会議に効果的に参加する際の三つの心得を考えてみたい。

第一に、技術的・環境的な懸念を解消すること。まず会議システムが複数存在することを念頭に、それらが画面の見え方や操作方法など、固有の特徴を持っていることを認識する必要がある。そのうえで、イヤホンマイクの装着や発言時以外のミュートを徹底し、雑音混入やハウリングなどのストレスを軽減させる。また、可能な限り会議に集中できる空間的な環境を整備することも重要だろう。

第二に、参加者は互いに配慮ある言動を心がけること。発言時に名前を名乗ることや、同時に発言しないよう留意すること、会話に時差が生じる前提で一呼吸おいて話し始めることが重要である。さらに、自身の発言時以外でも、聞こえている前提、見られている前提で振る舞うほか、家族やペットの映り込みや多少のネットワーク障害等に寛容な心を持つことも大切である。

第三に、会議を運営する側（議長・司会）がオンライン会議の特徴を意識した配慮をふるうこと。上述したような注意事項を事前に案内することや、接続不具合などを想定した代替案を立てておく。また議長・司会は、セキュリティの観点から誰が会議に参加しているかを確認する、指名して発言を促すといったことが重要になる。

建設的な対話はイノベーションの源泉である。オンライン会議への適応・利活用は、ニューノーマルな時代における企業価値の向上と持続的な成長の基盤になるだろう。